



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 2年 5月18日

新たな日常を「元気！本気！」で

校長 菅原 透



新型コロナウイルスに翻弄された今春。始業式と入学式を終えて、しばらく休校を余儀なくされました。この度、本県は緊急事態宣言が解除になり、白鷹町では本日より学校が再開されます。皆様に自粛生活をお努めいただいたおかげです。心より感謝いたします。

先週の分散登校の様子は、ホームページで毎日発信させていただきました。子ども達が学校に帰ってきたことが何より嬉しく、居ても立ってもいられなくなってしまいました。子どもは本当に愛おしい存在です。本日から通常授業になります。初心を忘れることなく、今年度のめざす学校「元気！本気！琢磨校」の具現に向けて、再スタートいたします。

さて、これからは“新たな日常”を迎えます。“3密”（密集・密接・密閉排除）、“ソーシャルディスタンス”（2mの確保）“マスク着用”“手洗い励行”への配慮等、ウイルス感染防止に向けて継続した取り組みが必要になります。学校はもちろん、家庭に戻ってからも同様ですから、放課後や休日の過ごし方、遊び方についても考えました。未だ、部活動も制限されていますので、しばらくの間、友達同士が集まっての遊びを控えるように指導しています。まだ、学校が再開したばかりの段階です。気を緩めることなく、徐々に当たり前を取り戻すことが大切です。まずは、学校再開を迎えたこの状態が続けられるよう、一人ひとり“新しい生活様式”を意識して生活してまいりましょう。

先週の分散登校でわかったことが二つあります。

一つは、子ども達には、友達といっしょに勉強したい！遊びたい！という強い思いがあること。しかも、クラス“みんな”と一緒にいたいという強い願いです。「楽しかった。」でも「みんなといたいからつまらない。」学習はオンラインでできるかもしれませんが、人とのふれあいが、心と生き方を豊かにするのですね。「かかわる」ことが学校の大事な使命であることをしっかり肝に銘じます。

そしてもう一つ。子ども達は「先生！」と教師の周りに集まる。教師も「おはよう」と握手したり、「よくやった！」と頭をなでたりする。困りました…。3密とソーシャルディスタンスが確保しにくいのです。でも、極力それを避ける“新しい学校生活様式”を創るよう、努めてまいります。（私も“我慢”を続けます。）

そこでお願いです。近づける！ふれ合える！のは「家庭」だけです。いっぱい遊んでください。いっぱい声をかけてください。いっぱいふれ合ってください。時間がなかったら、短い時間でもギュッと抱っこしてください。人とのかかわりで子どもの心は安定します。子どもの心をしっかり満たしていただきたい…。新たな日常が求める大人の姿はまさに「四かけ人」。（目・手・声・心をかける）みんな元気に！みんな本気で！チャレンジしましょう。

